

2016年10月28日

大阪産業大学附属中学校

2015年度 学校関係者評価

大阪産業大学附属中学校

学校関係者評価委員会

10月26日に学校関係者評価委員会（8名中7名の委員が出席）を開き、会議冒頭にホームページに掲載している体育祭・文化祭の動画を視聴し、その後、学校が公表する学校評価に基づいて大阪産業大学附属中学校の教育について議論しました。その概要を報告します。

1. 2015年度 学校評価について

体育祭・文化祭の動画、学校評価の記載に関して、特別活動を重視して取り組むことによって生徒の自尊感情を高め、学校の雰囲気は良くなっているとの評価を受けました。

ほとんど遅刻がないにもかかわらず、「この学校の生徒は、遅刻しないように努力している」との学校生活アンケートの質問に対する肯定的な回答が7割台にとどまっていることについて、「努力せずに、当たり前のこととして学校に来ているということではないか」との意見が出されました。

本校の大きな課題となっている「主体的に学習に取り組む」ことに関して、日常の勉強時間が足りないことが指摘され、指導の強化が学校関係者評価委員からも求められました。

2. 学校教育への提言

A. 保護者から

アンケートに関して、「授業が分かりやすいかどうか」との観点に加え「勉強ができるようになったかどうか」との観点をもっと加えるようにしてほしい、またアンケート結果に基づき「学校は、こういう改善をしていく」とのメッセージが生徒にもっと伝わるようにしてほしいとの意見が出されました。

現在、平日に実施している文化祭を日曜日の実施にし、多くの人に実際に来校してもらって、学校の姿を知ってもらうことはできないものかとの意見も出されました。

B. 近隣地域住民から

本校中学・高校合同のチアリーディング部が城東区の SARUGAKU 祭、地元地域のすみれ祭りに参加していることが、地域住民の方から報告されました。

一方で、高齢者の多い地域であるとして、通学バスで鞆を隣の席に置いているとの声が寄せられたことがあったとして、さらなる通学マナーの向上が求められました。

C. 大阪産業大学の教員から

附属中学・高校ということで進学のことをさほど気にしなくても学校生活を送れるが、基礎学力をしっかりと付けるようにしてほしい、また「しなくてはならないことは、きちんとできる」社会人基礎力も併せて身に付けるように指導してほしいとの意見出されました。